

第●章 リーディングプロジェクト

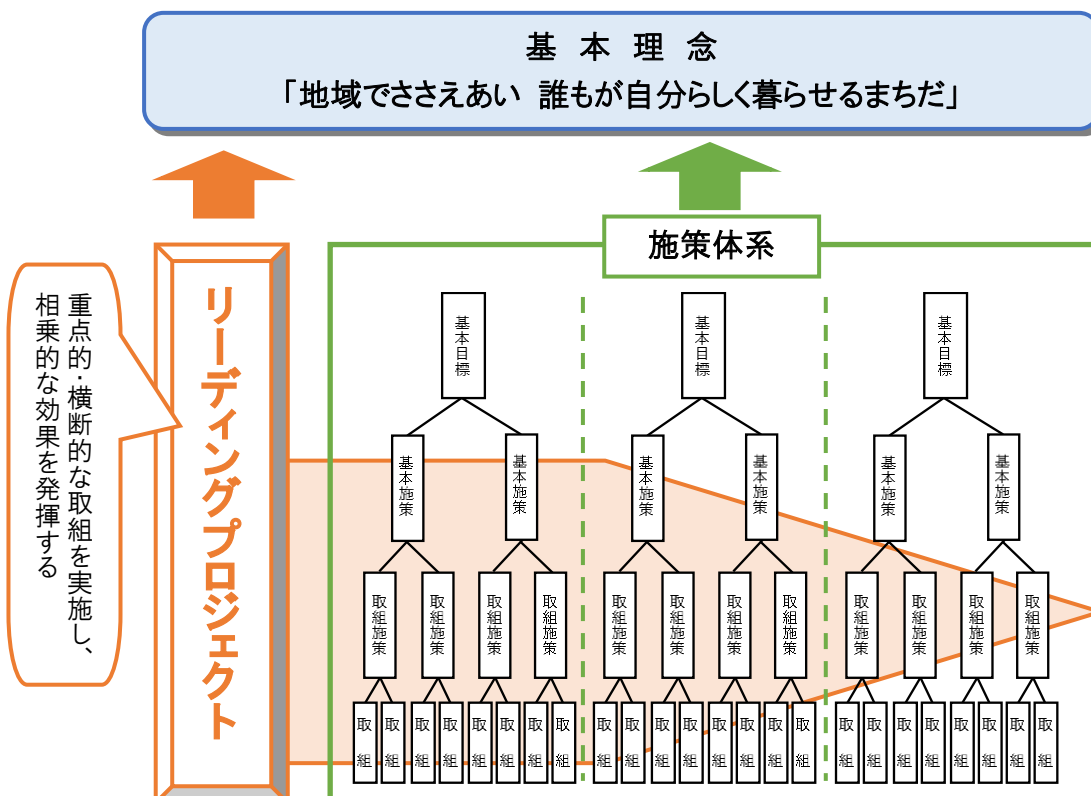
リーディングプロジェクトとは

基本理念である「地域でささえあい 誰もが自分らしく暮らせるまちだ」を実現し、協働による地域社会づくりと地域福祉をともに推進するため、本プランの先導的な役割を果たす2つのリーディングプロジェクトを設定しました。

各プロジェクトでは、相乗的な効果を発揮させるため、施策体系とは別に、特に重要な取り組みを横断的に関連付け、目指すべき方向性を明らかにしています。市民、地域活動団体、事業者、社会福祉協議会、市が協働しながら取り組むことで、その効果的な実現を目指します。

- 1 地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト
- 2 包括的な相談支援体制を構築するプロジェクト

リーディングプロジェクトのイメージ

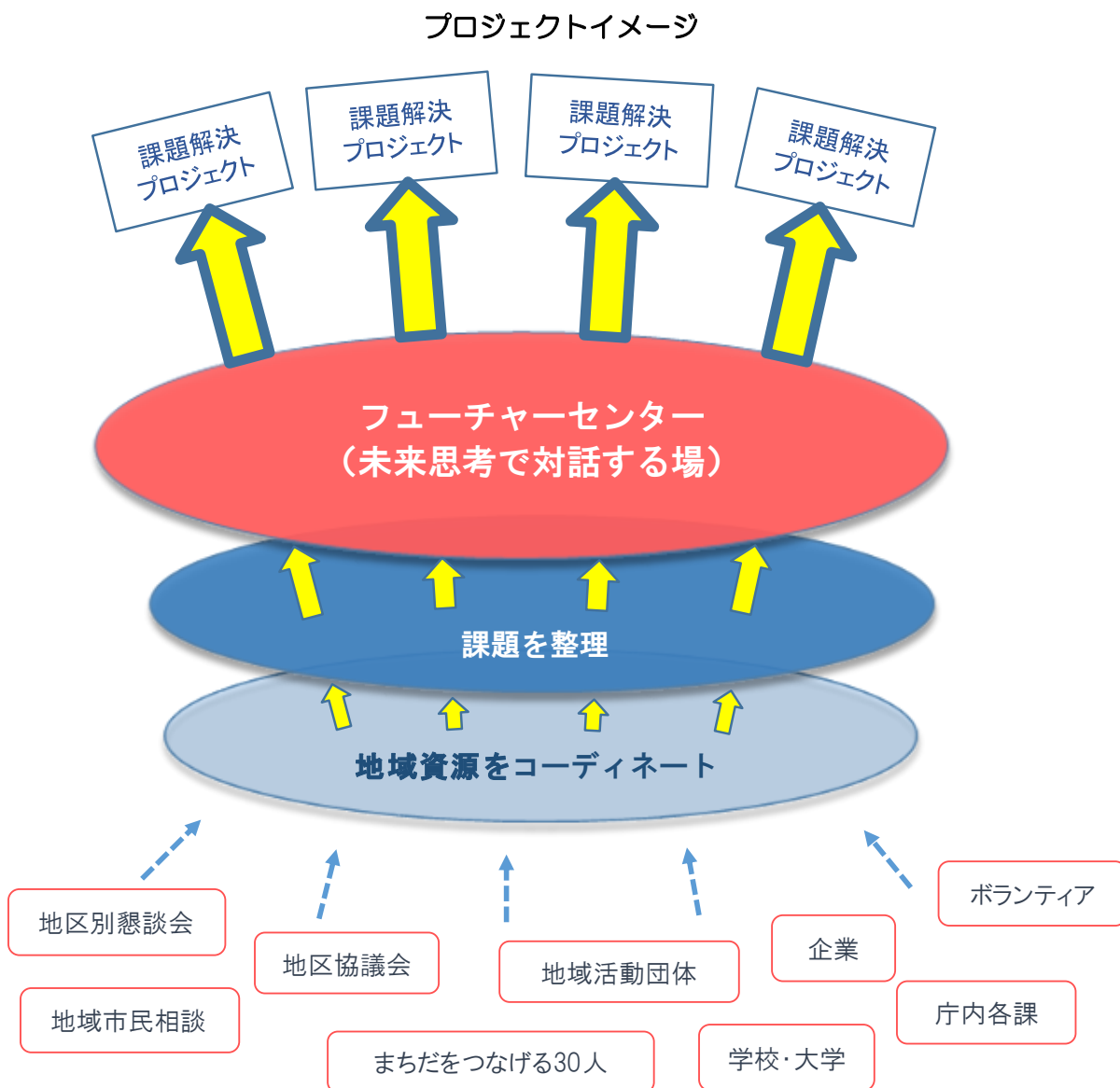


1 地域の「やりたい」をかなえつづけるプロジェクト

プロジェクトのねらい

少子高齢化の進展やテクノロジーの急速な進展によるコミュニケーション方法の変容、新型コロナウイルス感染症の流行を契機とした新しい生活様式への転換などにより、市民のライフスタイル・価値観は大きく変わろうとしています。従来の方では課題の発見や解決が困難な問題に直面する機会が増えてきており、これまで以上に地域の人と人とのつながりや新しいアイデア、手法を生み出す必要性が高まっています。

本プロジェクトでは、地域のつながりにより地域課題を解決していくため、市民、地域活動団体、事業者などが、ともに目指すべき未来の地域の姿を描き、その実現に向けたそれぞれの「やりたい」「できる」について地域一体となって取り組みます。



プロジェクトの推進方法

地域活動に関する相談や、まちづくりに関するアイデア等を受け付け、地域資源のコーディネートを進めます。コーディネートの過程で抽出された課題や、地区別懇談会等で明らかとなった課題等の解決を支援するため、多様な主体を交えたフューチャーセッションを開催する場「フューチャーセンター」を設置します。

(注) フューチャーセッション・・・未来に向けた問いかけがあり、それを自分ゴトとしてとらえて集まった参加者が、対話を通じて新たな関係性やアイデアを生み出していく活動。

(注) フューチャーセンター・・・地域、企業、行政など多様な主体を交えてフューチャーセッションを開催する場。

プロジェクト達成に関連する施策

1 地域の多様な主体とともに地域課題解決に取り組みます	
内容	<p>2018年から2021年に実施した、「やりたい」を実現するプロジェクト「まちだ〇ごと大作戦」では、200を超える作戦が生まれ、多くの賛同者の方に、作戦に参加していただきました。そこで築かれたつながりや地域への思いを次の世代に引き継いでいけるよう、地域活動に関する相談や、まちづくりに関するアイデア等を受け付け、地域資源をコーディネートします。</p> <p>そして、コーディネートの過程で明らかになった課題を抽出し、多様な主体が集まる場でフューチャーセッションを開催します。地区協議会の構成団体のほか、企業、NPO、大学、庁内などから参加者を集め、対話を通じて新たな関係性やアイデアを生み出し、プロジェクト化していきます。セッションを通して、一緒に取り組んでもらいたい関係者を招き入れ、活動の輪を広げることで、地域課題を持続的に解決していくための協働のサイクルを生み出します。</p>
関連取組	<p>Ⅱ-1-(1)-① 地域・企業・行政による課題解決の仕組みの構築</p> <p>Ⅱ-2-(1)-① 地域・企業・行政による課題解決プロジェクトの推進</p>

2 デジタルとマッチングで、つながり、担い手、支援を充実させます	
内容	<p>若い世代は地域活動への参加が他の世代と比べて少ないですが、自由な発想やネットワークの軽さを持っています。そのような方々が地域とつながることで、持続的な地域課題解決の取り組みや新たな解決策が生まれるといったことが期待されます。SNSやオンラインサロン等デジタルを活用し、意識や関心が地域へ向くように若い世代を中心に働きかけ、新たなつながりを創出していきます。</p> <p>また、個人や企業の持つ経験や能力、地域に対する思いと地域のニーズとをマッチングすることで、これまでのつながりをさらに広げていきます。また、NPO等の活動団体と地域とのマッチングも進め、多種多様なつながりづくりに取り組みます。</p>

	さらに、既存のサービスでは解決が図られない複雑化・複合化した課題と地域の社会資源・支援メニューとのマッチングをすることで、本人やその家族のニーズ・状態に合った支援を行っていきます。
関連取組	I-1-(2)-① デジタルの場の活用 I-2-(1)-① マッチングの促進 Ⅲ-2-(1)-③ 地域の多様な主体と連携した参加支援

3 「(仮称) 地区未来ビジョン」の実現に向けた活動に取り組みます	
内容	地区協議会を中心に地区の目指すべき姿や、その実現のために「できる」「やりたい」取り組みをまとめた「(仮称) 地区未来ビジョン」を、10地区で作成します。 そして、地区ごとに、地域の市民、事業者、NPO団体等が参加する地区別懇談会を毎年開催し、取り組みの進捗状況を確認していきます。開催にあたっては多くの幅広い世代の参加を促し、次の世代に引き継がれる「新しい価値」を創り出すとともに市民活動・地域活動を盛り上げていきます。
関連取組	Ⅱ-1-(2)-② 地区別の懇談会の開催 Ⅱ-2-(2)-② 地区未来ビジョンの実現に向けた支援

各主体の主な役割

市民・地域活動団体	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいこと、できることがある人→スキル等を提供 ・困りごとがある人→課題を相談
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のアイデア、資源を提供
行政・社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・フューチャーセッションをコーディネート ・課題解決を推進

関連する指標

- Ⅱ-1 課題解決プロジェクトの参加人数
- Ⅱ-2 課題解決プロジェクトの実施件数
- Ⅲ-3 地域の市民や地域活動団体に支えられて暮らしていると感じる市民の割合

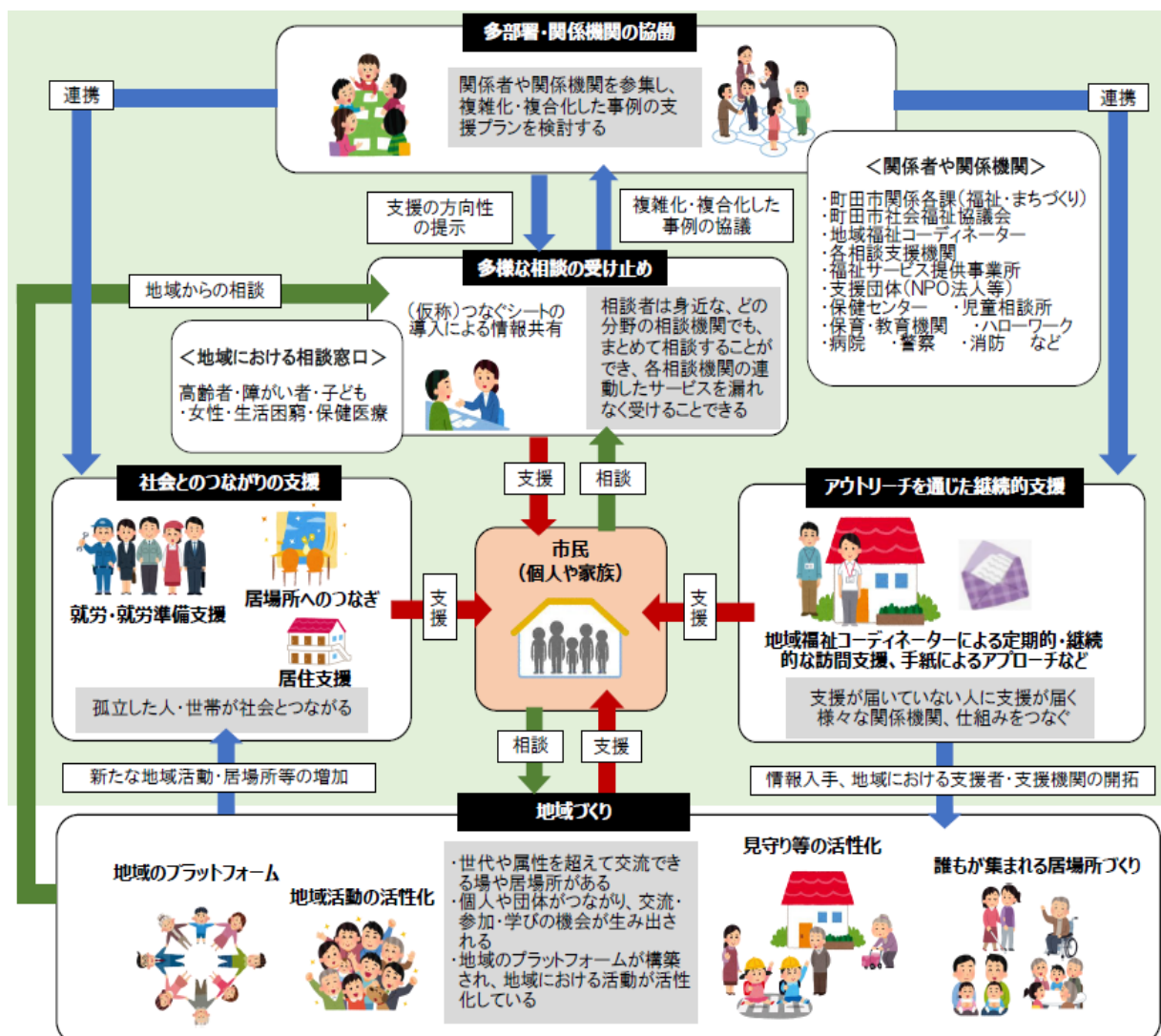
2 包括的な相談支援体制を構築するプロジェクト

プロジェクトのねらい

高齢者や障がい者、子ども、保健などの各分野では、これまで、それぞれの制度をベースとした専門性のもとに支援を行ってきました。しかし、複雑化・複合化した市民の困りごとに対して、迅速かつ効果的な支援を行うためには、地域における各分野の相談支援機関が培ってきた専門性をいかしつつ、これまで以上に連動し支援を行う必要があります。

本プロジェクトでは、各分野に関する相談を横断的に受け止めるとともに、各機関の連携を強化することに加え、市民、NPOなどの地域活動団体、地域の事業者と連携しながら支援を行うなど、包括的な相談支援体制の構築を目指します。

プロジェクトイメージ図



プロジェクトの推進方法

庁内関係各課及び地域における相談支援機関によるプロジェクトチームを立ち上げ、包括的な相談支援体制について、具体的な検討を行います。

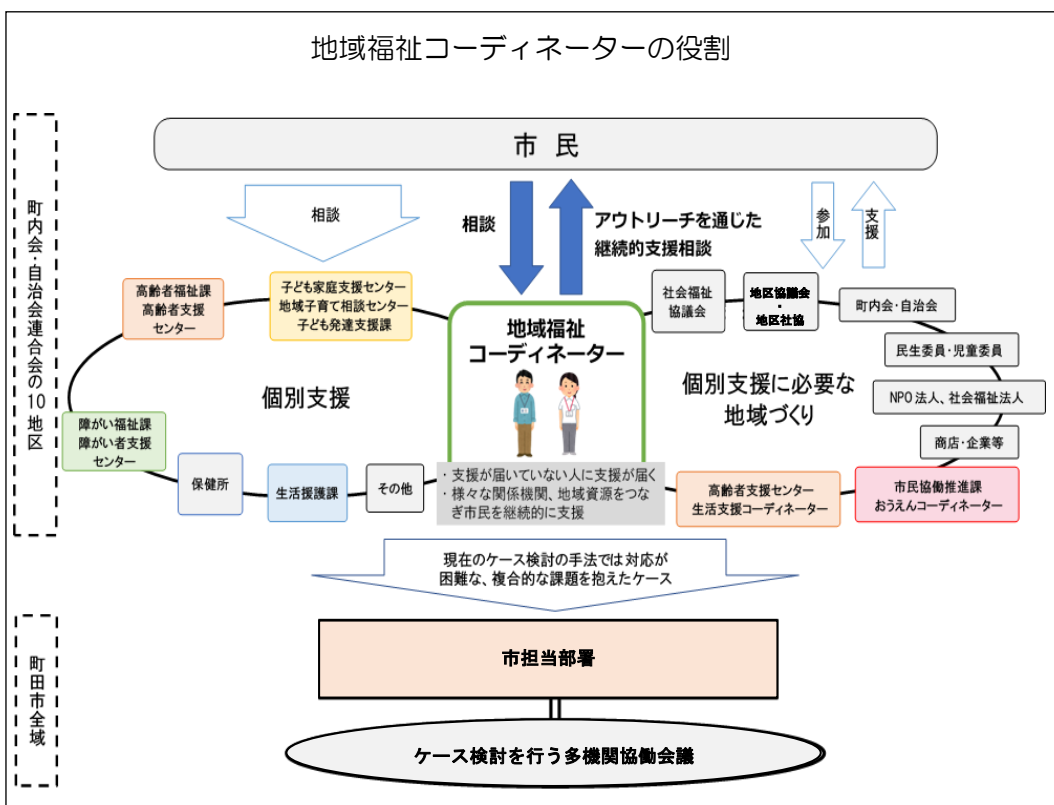
プロジェクト達成に関連する施策

1 身近な相談支援機関でまとめて相談後、各機関が連動した支援が受けられます	
内容	<p>身近な地域の相談支援機関で、属性・世代・内容を問わず包括的に相談を受け止め、相談者の課題を整理し迅速かつ確実に適切な支援機関に引き継ぐことができるよう「(仮称)つなぐシート」を導入します。また、受け止めた相談のうち、課題が複雑化・複合化しており、各機関の役割分担の整理が必要な相談の場合には、各相談支援機関に加え、医療機関やNPO法人等と協働した「(仮称)多機関協働会議」を開催し、支援の方向性を定めます。さらに、こうした体制を構築することができるよう、普段から地域の相談支援機関間の顔の見える関係づくりに取り組みます。</p> <p>これらにより、相談者は1か所の機関でまとめて相談することができ、行政や事業者、NPO法人等が連動した、より効果的な支援を受けることができます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>分野をまたがる相談に対する(仮称)つなぐシートを用いた相談フローイメージ図 (例) 高齢者から、子の障がいとひきこもり及び自身の介護に係る相談が、高齢者分野の支援機関に入った場合。</p> <p>① 相談する ② 他分野の内容は、(仮称)つなぐシートにより、確実に引き継ぐ ③ 引き継がれた内容をもとに電話・訪問等により支援を行う</p> </div>
関連取組	<p>Ⅲ-1-(3)-① 身近な場所での相談体制の充実 Ⅲ-1-(3)-③ 多機関の協働による相談支援体制の構築 Ⅲ-3-(3)-① 庁内における包括的支援体制の充実 Ⅲ-3-(3)-② 地域における相談支援機関の連携・協働の推進</p>

2 地域の支え合い活動が充実します	
内容	<p>地域活動の担い手と地域活動団体のマッチング機会を創出し、地域の支え合い活動の充実を図ります。また、従来の枠組みに捉われず新しいアイデアや柔軟な発想による課題解決策が検討できるよう、多様な主体のつながりがさらに広がる仕組みを構築し、地域のネットワークである「地区協議会」や「地区社会福祉協議会」などをもとにした持続可能な地域のプラットフォームを構築します。</p> <p>これらにより、生まれた地域資源を活用しながら支援を行うことで、多様な市民の困りごとの解決を図ります。</p>
関連取組	<p>I-2-(1)-① マッチングの促進 Ⅱ-1-(1)-① 地域・企業・行政による課題解決の仕組みの構築 Ⅲ-1-(2)-① 多様な人材の地域福祉活動への参加促進 Ⅲ-2-(1)-③ 地域の多様な主体と連携した参加支援</p>

3 相談できる身近な居場所が充実します	
内容	悩みや不安を抱える方の社会的な孤立を防ぐため、困りごとを抱えた人や世帯が、何気ない会話の中で互いに相談できるよう、身近な地域の居場所の充実を図ります。これまでの参集型の居場所に加え、外出ができない状況にある方でも参加できるよう、デジタルの居場所も活用しハイブリッドな居場所を創出します。
関連取組	I-1-(2)-① デジタルの場の活用 I-1-(2)-② 地域活動の場の活用

4 地域福祉コーディネーターが一人ひとりの状況に応じた支援につなげます	
内容	<p>複数分野にまたがる複雑化・複合化した課題を抱えているため、支援を必要としながらも声をあげられない人や自らが抱える問題を認識していない人等の潜在的な相談者を、必要な支援につなげることができるよう、地域福祉コーディネーターを導入します。</p> <p>地域福祉コーディネーターは、各種会議や支援関係者との連携を通じて、地域の状況などにかかる情報を幅広く収集し、支援が必要な潜在的な相談者を見つけます。また、本人と直接対面したり、継続的な関わりを持つために、訪問や手紙など定期的・継続的なアプローチを行います。さらに、支援を行うにあたって、既存の福祉サービスでは解決を図り切れない場合には、地域における様々なコーディネーターと連携し、新たな社会資源の開拓や既存の資源の拡充を図り、これらの資源とマッチングするなど、一人ひとりの状況に応じた支援につなげます。</p>
関連取組	<p>Ⅲ-1-(3)-② 地域のつながりを通じた潜在的な相談者の把握</p> <p>Ⅲ-2-(1)-③ 地域の多様な主体と連携した参加支援</p>



各主体の主な役割

市民・地域活動団体	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に参加する・協力する ・地域の困りごと等を解決するために話し合う・取り組む
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・地域活動団体等の活動を支援する ・市民の困りごと等を解決するために地域や関係機関・行政と連携する
行政・社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・地域活動団体等の活動を支援する ・包括的な相談支援体制の構築に向けた仕組みをつくる

関連する施策の指標

- I-2 地域活動に参加している市民の割合
- Ⅲ-1 地域の市民や地域活動団体に支えられて暮らしていると感じる市民の割合
- Ⅲ-1 困ったときに身近に安心して相談できる相談支援機関があると感じる市民の割合